

めぐみイエス・キリスト教会

2023年10月15日(日)第三主日礼拝

午前10時より

週報「通算第678号」



2023年標題聖句

第Iヨハネの手紙第5章4節～5節

《神から生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌45「十字架の血に」 p. 64

【交読文】 No.35 詩篇第110篇 p. 907

【賛美Ⅱ】 新聖歌458「光の高地に」 p. 734

【使徒信条・主の祈り・先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.1「ラザロ」

【聖書朗読】 ルカの福音書2章25節～35節(新約p. 111下段)

【礼拝説教】 《神の人シメオン》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(ルカの福音書2章25節～35節)

2:25 そのとき、エルサレムにシメオンという人がいた。この人は正しい、敬虔な人で、イスラエルが慰められるのを待ち望んでいた。また、聖霊が彼の上におられた。

2:26 そして、主のキリストを見るまでは決して死を見ることはない、聖霊によって告げられていた。

2:27 シメオンが御霊に導かれて宮に入ると、律法の慣習を守るために、両親が幼子イエスを連れて入って来た。

2:28 シメオンは幼子を腕に抱き、神をほめたたえて言った。

2:29 「主よ。今こそあなたは、お言葉どおり、しもべを安らかに去らせてくださいます。

2:30 私の目があなたの御救いを見たからです。

2:31 あなたが万民の前に備えられた救いを。

2:32 異邦人を照らす啓示の光、御民イスラエルの栄光を。」

2:33 父と母は、幼子について語られる様々なことに驚いた。

2:34 シメオンは両親を祝福し、母マリアに言った。「ご覧なさい。この子は、イスラエルの多くの人々が倒れたり立ち上がったたりするために定められ、また、人々の反対にあうしるしとして定められています。

2:35 あなた自身の心さえも、剣が刺し貫くことになります。それは多くの人の心のうちの思いが、あらわになるためです。」

●ポイント1.「シメオン」とは？

■シメオン 公正で敬虔なイスラエル人で預言の賜物を与えられていた。救い主を見るまでは死なないという神の告知を受けた後に神殿に行き御子イエスに会った。彼はイエスを腕に抱き、この子を見ることができた特権を神に感謝した。かなりの高齢者であったと思われる。

※使徒の働き15章14節「主の弟ヤコブの言葉から」 (新約p.265)

15:14「神が初めに、どのように異邦人を顧みて、彼らの中から御名のために民をお召しになったかについては、シメオンが説明しました。」

●ポイント2.「シメオンの預言」とは？

※ルカの福音書2章34節～35節「現代訳同一箇所から」

2:34 シメオンは両親を祝福して、母マリアに言った。「ご覧なさい。この子はイスラエルの民を二つに分けてしまいます。ある者は信じて救われ、ある者は信じないで滅ぼされます。また、必ず反対する者が起こされるでしょう。

2:35 この子の為に、あなたは刀で胸が刺し貫かれるような思いをしなければなりません。そのことを覚悟しなければなりませんぞ。それは、この子の事件によって、人々の心の奥深くにある思いが、はっきり露呈するようになるからです。」

●ポイント3.「剣が刺し貫く思い」とは？

※ヨハネの福音書19章25節～27節「十字架の御前にて」(新約p.226)

◎先週の礼拝メッセージ【主イエス・キリストの割礼とは？】

《レビ記には、「女が身重になり、男の子を産んだとき、その女は七日の間汚れ、月のさわりの不浄の期間と同じように汚れる。八日目には、その子の包皮の肉に割礼を施す。」』と書かれています。

また、出エジプト記には、「最初に胎を開く男子はみな、主のために聖別された者と呼ばれる」と書いてあるように、ヨセフとマリアの両親が、幼子イエスを、主なる神様に献げるためでもありました。それゆえ、彼らはベツレヘムからエルサレムの宮に行き、祭司の所に赴きます。そして、幼子イエスに割礼が施されます。創世記によりますと、『次のことが、私とあなたがたとの間で、また後の子孫との間で、あなたがたが守るべき私の契約である。あなたがたの中の男子は皆、割礼を受けなさい。あなたがたは自分の包皮の肉を切り捨てなさい。それが、私とあなたがたとの間の契約のしるしとなる』と、なっています。

そして、全焼のささげものと罪のきよめのささげもの(山鳩一つがい、あるいは家鳩のひな二羽)がなされることとなります。ここから、主の家族は貧しい家族であったと思われていますが、確かにこの時には、彼らには羊を買う余裕はなかったようです。

さて、主イエス・キリストが「割礼」を受けた最大の理由は、ご自身がお決めになられた「割礼」の痛みを知る為です。イザヤは、『まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みを担った。』と言っています。

そして、もう一つの理由は、『この方はご自分の所に来られたのに、ご自分の民はこの方を受け入れなかった』と、ヨハネが書き記していますように、ユダヤ人のメシアとして、ダビデの家系に属する者として、純粋なユダヤ人としてお生まれになられたしるしを、主はその御体に刻むためでした。そして、一切罪を犯さず、律法をすべて守り、律法を成就されるのです。》

◎お知らせ

※次回礼拝は、10月22日(日)です。通常通り、午前10時に行ないます。また今回は、第五聖日に行ないます特別メッセージになります。